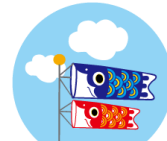




Best Life Promotion

BLPニュースレター



Vol.4 2010年5月1日発行

風薫る5月の空に鯉のぼりが泳ぐ季節になりました。
今回は、2008年度より実施中の経済産業省実証事業（「健康情報活用基盤構築に向けた標準化及び実証事業」）における2009年度までの成果の一部をご紹介します。

■「健康情報活用基盤構築に向けた標準化及び実証事業」成果報告

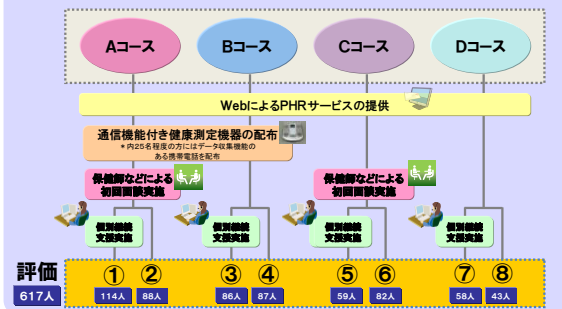
2009年度は、2008年度より事業に参加協力いただいている約700名の方に対して、保健指導サービスを提供致しました。辞退や退職された方を除いた617名の方について評価を行いました。

■実証事業における健康サービスのグループについて
面接の有無、個別支援メールの有無と通信機能付き測定機器の利用の有無によって8つのグループに分類しました。

分類方法は、年齢、性別と性格特性をもとに、無作為に抽出して決定しました。

各グループの内訳と人数については、下図のとおりです。

【実証評価用の健康サービスグループ分け】



■サービス別のセルフモニタリング継続率

6か月以上のセルフモニタリング継続率をサービス別にみると、機器あり群で85.6%と高く、有意な差を認めました（ $p < 0.001$ ）。

面接を行ったグループでは65.6%、個別支援メールのあったグループで66.2%の継続率でしたが、有意な差は認められませんでした。

その結果、通信機能付き測定機器の利用が、セルフモニタリングの継続に大きな影響を与えていることがわかりました。

【セルフモニタリング】

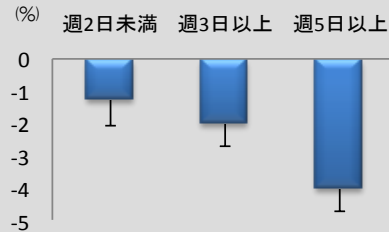
ここでは体重や血圧、歩数計などのデータや立案した行動計画の進捗状況をPHRに入力することをいう。（通信機能付き測定機器による自動送信を含む）

■セルフモニタリング効果について

BMI25以上の参加者（154名）を対象とし、体重の変化率と1週間あたりのセルフモニタリング回数について

の関係を見ました。その結果、1週間あたりのセルフモニタリング日数が3日以上に参加者に、減量者が多く認められました（70.1%）。特に、週に5日以上セルフモニタリングを実施した群においては、5%以上減量した方が29.5%もありました。

体重の変化率の平均値をみると、下図のとおり3群間で有意な差を認めました（ $p < 0.01$ ）。



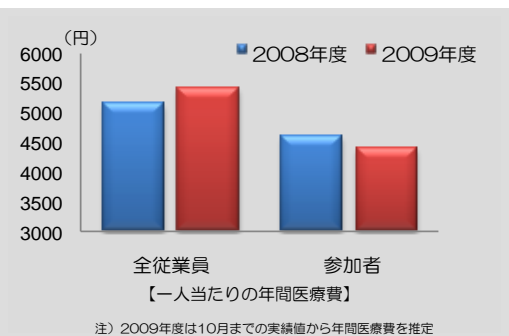
【BMI 25以上における体重の減少率とセルフモニタリング回数】

さらに「特定保健指導」の条件に当てはまった38名のうち20名の方が保健指導レベルが改善したという結果を得ました。

■実証事業による医療費の変化（ご参考）

レセプト情報をもとに、主として生活習慣病医療費の対象となる糖尿病と高血圧性疾患を病名に持つレセプトの年間医療費を各グループ別に集計し、2008年度と2009年度の一人当たりの年間医療費を比較しました。対象とした2社の全従業員の平均値は2008年度に比べ2009年度が増加しているのに対し、今回の実証参加者の平均値は若干ですが減少しているという結果がでてきます。

グループ別での増減傾向については顕著な傾向は確認できていませんが、今後詳細に分析を行っていく予定です。



ヘルスアップWeb活用体験談

「ヘルスアップWebを使った事例紹介」では、今回はご家族そろってお使いいただいている方に、体験事例をご紹介します。

■家族みんなで健康に！

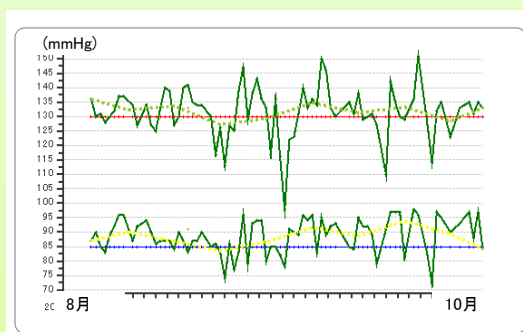
私は2008年4月から、家族型サービスに加入しています。加入者は私を筆頭に、夫、夫の両親、私の両親の計6名です。このサービスに加入した一番のメリットは、離れたところに住むそれぞれの両親のデータが、手に取るように把握できるという点です。というのも、それぞれが高血圧・心臓病・胆嚢疾患・やせといった病気を抱えており、親の健康状態は、私にとっていつも懸念事項だったからです。

それまでも、時々様子伺いのため、電話での体調確認はしていたのですが、数字的な事がわからなかったため、「体調はどう？」と聞くしかありませんでした。今は親のデータが確認できるので、より具体的な会話ができます。例えば、高血圧の父には「最近血圧が高めの傾向だから、血圧のグラフを印刷して主治医に見せて、今飲んでいる薬について相談をした方がよいかもよ」と、いった風に。

また、やせの母の体重データを見て、ある一定ラインよりも体重が減少してきたら、高カロリー飲料などを専門店で購入・配送手続きをしたり。（予告なしに突然届いたこのプレゼントに、母はすいぶん喜んでくれました。）

離れて住んでいると、気にはなっていますが介護一歩二歩手前のケアは、なかなか行き届きません。が、今の状態のデータを見て電話するだけで親も喜んでくれ、見てくれている人がいるから頑張ろうという前向きな気持ちになってくれ、本当にこのサービスに加入して良かったと感じています。

我が家のように転勤族で、親と同居することが難しいケースは多いと思います。このサービスが普及することを願っています。



家族の血圧グラフ

■ベストライフ・プロモーション各部のご紹介

3回目の今回は、サービスビジネス部をご紹介します。サービスビジネス部は関西事業所にあり、管理栄養士や看護師の資格を持った専門職を中心に、サービス企画・機能策定、保健指導・健康増進業務を担当しています。保健指導サービスの提供等は、個人情報を取扱いますので、セキュリティ機能を強化したコンタクトセンターを併設して管理・運営を行っています。

1. サービス企画・機能策定

■実証事業への参加

国プロには全社的に対応していますが、サービスビジネス部が中心になって活動しています。

昨年度実績は、経済産業省・「健康情報活用基盤構築に向けた標準化及び実証事業」、総務省・「ICT地域活性化(ユビキタス特区)事業」、厚生労働省・「地域診療情報連携推進事業」の3つに参加し、それぞれ成果を上げることができました。

■個人向けサービスの拡大

富士通(株)と連携して、携帯電話を活用した個人向け健康増進サービス企画の開発に参加しています。

■PHRフィールド対応

健診システムと連携した保健指導システムの提供に対して、指導の専門家がマスタ設定から操作教育まで支援します。

2. 保健指導・健康増進サポート

コンタクトセンターを中心に専門職が自らPHRを利用しながら、健康情報を基にした保健指導サービスを提供しています。

指導は、個人から事業所従業員、実証事業参加者などさまざまな方々を対象に行っています。

■健康増進サポート

「健康メール便」の発信、PHRシステムや測定機器に対するQ&A対応、健診予約受付などのサービスを行っています。



一 編集後記 一

ニュースレターを発行して1年、今回のVol.4にやっとたどりついたといった感じです。新年度を向かえ、ニュースレターも刷新させていただきますので、今後をご期待ください。



発行元：

株式会社ベストライフ・プロモーション
川崎市中原区上小田中4-1-1 富士通川崎工場内
TEL：044-754-2060 FAX：044-754-2029
URL：http://www.blp.co.jp